



pecial
Interview

Kanae

Doi

◎土井香苗(どい・かなえ)

1975年神奈川県生まれ。'96年東京大学法学部3年生の時に当時最年少で司法試験に合格。'97年NGOピースボートのボランティアとして、アフリカで一番新しい独立国エリトリアにおもむき、エリトリア法務省で法律作りに携わる。'98年東京大学法学部卒業。2000年弁護士登録。普段の業務のかたわら、日本にいる難民の法的支援や難民認定法改正のロビー活動やキャンペーンにかかわる。'06年米国ニューヨーク大学ロースクール修士課程修了(国際法)。国際NGOヒューマン・ライツ・ウォッチのニューヨーク本部のフェローを経て'07年から日本駐在員。'08年9月から東京ディレクター(日本代表)となる。'09年4月にヒューマン・ライツ・ウォッチの東京オフィスを設立。著書に『"ようこそ"といえる日本へ』(岩波書店刊、2005年)、『テキストブック 現代の人権第3版』(共著・日本評論社刊、2004年)など。ヒューマン・ライツ・ウォッチ公式サイト <http://www.hrw.org/ja>



世界を知り、発信することが 人権侵害根絶への第一歩

[ヒューマン・ライツ・ウォッチ 東京ディレクター/弁護士] 土井香苗

取材・文: 柏木美樹 撮影: 蔵 真墨

世界の人権侵害に関する調査・監視を行うNGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」の一員として活動する土井香苗さん。人々の権利と尊厳を守るために、客観的で徹底した調査と政策提言によって、人権侵害の解決を求める世論と圧力を作り出している。お会いした日は、アメリカの本部で行われたミーティングから帰国したばかり。国内での講演やシンポジウムも多く、今年4月からはNHK衛星ハイビジョンとBS2で放送中の「地球ドキュメント ミッション」のキャスターを務めるなど、ほっそりした外見からは計り知れないパワーを秘めた女性だ。「世界の不幸の根を絶つ」という目標に向かって、一步一步道を切り開いてきた土井さんの「日本が大きな力を持つ国だからこそ、日本人は世界で起こっていることを知り、意見を発信しなければなりません。世論が国を動かすんです!」という言葉が心に響いた。

▶ 英語上達の鍵は「独り言」

—英語との出会いはいつでしたか。

土井 小学校5、6年のときに近所の英会話教室に通っていました。といっても「This is a pen.」が言えるようになった程度なのですが、先生がアメリカ人だったので発音だけはよくなりました。中学では、漢字や英単語などの暗記ものが苦手だったので、英語は不得意科目でした。それが中3の夏にイギリスのエディンバラにホームステイしたのをきっかけに変わったんです。スペイン、ドイツ、ベルギーの同年代の子どもたちと一緒に暮らしたことで、英語は生活の中で実際に使うものだと気づいたんです。

そのころから、英語で独り言を言うようになりました。うまく英語で言えなかったことがあると、後からその場面を思い返して、英語で言ってみるんです。お風呂に入りながらブツブツ、歩きながらブツブツ……。独り言は中3から始めて今もずっと続いていますから、私の英語は独り言によってうまくなったようなものですね。

英語は「書く」「話す」「聴く」の3つからなりますが、「話す」ことは準備も不要で場所も選ばないし、1人でできるので私にとっては楽で得意でした。話すのが得意だと就職のときに有利です。最初の5分間の話し方や発音で印象が全く違ってきますから、自分は何者なのか、何をしたいのか、何が得意かといった自己アピールの内容を準備しておいて、英語ですらすらとしゃべれるように何十回も練習しておくことが大事だと思います。英語での面接では、とても効果的だと思いますよ。

—現在は国際NGOのヒューマン・ライツ・ウォッチ(以下HRW)の東京ディレクターとして、人権を守る活動をしていらっしゃるようですが、そういった活動に入ったきっかけは？

土井 人権問題に興味を持ったのは、中3から高1のころ

▶ ロースクール時代に深まったヒューマン・ライツ・ウォッチ(HRW)への関心

—エリトリアに行ったときの英語力はどのくらいでした？

土井 大学受験に向けて英単語を覚えましたから、ボキャ

に犬養道子さんの『人間の大地』というアフリカとアジアの難民キャンプのルポを読んだのがきっかけです。この本を読んで、難民たちの悲惨な状況と、東西冷戦の時代に難民が生まれる背景として、一般の人々を無視した、国家間の欲に駆られた政策があるのを知り、衝撃を受けました。

エディンバラでのホームステイの経験が強烈だったので、海外の人々と出会う仕事がしたいと漠然と思っていました。国際的な仕事という外交官かな、などと考えていたのですが、この本を読んで、単に外国人としゃべれば良いというのではなく、アジアやアフリカの難民を救う仕事がしたいと思い始めました。

大学では法学部に進んだので、人権保護とは直接つながってはいなかったのですが、それが結びついたきっかけの1つは、大学4年生のとき、ピースボートのボランティア活動に参加したことでした。幸いなことに、大学3年で司法試験に合格したので、4年のときに時間ができたのです。当時、ピースボートは独立したばかりのエリトリアというアフリカの国をサポートしていたので、エリトリアの法務大臣を紹介してもらいました。自分が日本の司法試験に合格したこと、法律家としてはまだまだ未熟だけれども、エリトリアのために法制整備の面で、少しでもボランティアをさせてほしいということ传达了のです。

エリトリアでは刑法定備の手伝いをしたのですが、スタッフは学生の自分ともう1人だけという少人数だったのには驚きました。そのときに、先輩たちからアドバイスを受ける必要があったので、初めて弁護士、裁判官、検察官という法律の実務をしている人たちと身近にお会いし、日本に逃げてきた難民を保護する「人権弁護士」という仕事があることを知って、自分はその方面で働くことと決めました。

ブラリーは中学のホームステイのときよりはましになったという程度。エリトリアに出発する前に、受験勉強で使った「試験に出る英単語」などを、もう一度勉強し直したのですが、普通の日本人の英語に毛が生えたレベルでした。

エリトリアでは英語を使っていましたが、公用語は英語ではなかったので、エリトリアで英語が洗練されたとは思われませんでした。それで、いつかちゃんと留学しようと考え、日本で5年間弁護士をした後、ニューヨーク大学のロースクールに留学しました。そこでHRWの活動のことを詳

犬養道子さんの『人間の大地』を読んで
アジアやアフリカの難民を
救う仕事がしたいと思い始めました



ニュースを見よ! そして見たら発信せよ!

ということをお願いしたい



2009年4月にHRWのアジア初拠点となる「HRW東京オフィス」を開設し、外国特派員協会で開催記念記者会見を行う

しく知ったのです。HRWのことは、日本でアフガン難民の弁護を引き受けていたときにもその資料を使ったりしていましたから、存在は知っていました。しかし、当時は日本に拠点がなかったし、HRWのことを人権の専門調査機関というふうにとらえていたので、自分がそこに入るという感覚はあまりありませんでした。

ニューヨーク大学のロースクールに入って初めて、HRWの調査資料だけでなく、組織を動かしている人間が見えてきたんです。人権保護に関する国際的権威の教授の授業では、HRWの活動をたくさん取り上げました。このロースクールには、世界中から人権弁護士が集まっていたが、



HRWで活動することはみんなのあこがれでした。ものすごく優秀でないとその組織には入れない狭き門だということで、私も友人に影響されて、あこがれるようになりました。

その後、ロースクールで修士号を取り、国際交流基金でNGO用のフェローシップを受け、1年間という条件付きでしたが、HRWに採用されました。幸いなことに、その後も首が繋がって今年で4年目になります。

HRWで簡潔でエレガントなニュース英語を体得

— アメリカ留学とHRWの活動で、英語力はどう変わりましたか。

土井 ロースクールの授業は苦手な「聴く」「書く」ことがほとんどで、予習の量も非常に多く、朝から晩までかなり勉強しました。しかし大学で使う言葉は学術書で使われるような難解なもので、私が求めている英語とはちょっと違っていました。私は普通にCNNで聴いているような英語で話し、書きたかったんです。

HRWではどんどん情報をまとめてニュースを配信します。その文章は、各地の記者がそのままコピーして使える文章を理想としています。書簡など別のスタイルもありますが、HRWのプレスリリースの基本はニュース英語です。それぞれ私が求めている英語でした。ニュースでよく使う言い回しを覚えることで、こなれた英語になりますし、同僚の間でのe-mailのやりとりも大変勉強になります。HRWで活動してから、会話レベルを超えた専門性を持つ、簡潔でエレガントで、洗練された英語が使えるようになりました。そういう意味でも、HRWに入ってよかったと思います。

— 2009年にHRWの東京オフィスを立ち上げ、現在は日本を拠点に活動していますが、英語力を維持するためにしていることは何ですか。

土井 仕事は基本的にすべて英語で、毎日、相当な量の英語を読まなければいけないので、読むことに関しては日本にいても特に問題はあります。意識して行っているの

は、家にいるときは常にケーブルテレビでBBCのニュースを流していることです。日本のテレビだけを見ていては、世界で何が起きているかがわからないので不安になります。世界で起きていることを知るためと、英語を聴くために、常に英語のニュースに触れるようにしています。

CNNやBBCのニュースを見れば、世界で何が起きているかがわかります。日本の皆さんには、世界で起きていることをもっと知ってほしいんです。そして、それを発信してほしい。家族に話したり、ブログでもツイッターでも一言でもいいから発信する——それが世論なんです。

今、日本人は何も知らなさ過ぎる。日本は国際的な力が強く、世界中にお金をたくさん配っています。そのお金をどう配るか、安全保障理事会で何を言うかによって、人権侵害の被害者たちの運命が決まることが結構あるんです。政治家たちに「アフガニスタンの女性の人権保護の問題についても発言した方が票がとれるんじゃないか」と思ってもらうだけでもいい。あるいは、「今度のアフガン選挙で民間人をたくさん殺した軍閥が大勢当選しているのはおかしくないか、被選挙者資格はどうなっているのか。多額の援助をしているが、この問題についてアフガン政府にただしているのか」というように、日本人が興味を持っているということを世論で表すだけで、世界の人たちが救われるんです。「ニュースを見よ! そして見たら発信せよ!」ということをお願いしたいです。